

分野の目指す姿	○ 山で若者が働く、全国有数の国産材産地		
分野を代表する目標	木材・木製品製造業出荷額等 原木生産量	現状(H29) 215億円 ⇒ 4年後(R5)228億円 現状(H30)64.6万m3 ⇒ 4年後(R5)79万m3	⇒ 10年後(R11)236億円 ⇒ 10年後(R11)85万m3

戦略の柱	1 原木生産の拡大	2 木材産業のイノベーション	3 木材利用の拡大 (建築士等への戦略的アプローチ)	4 担い手の育成・確保
戦略の方向性	・川下の需要に応じた弾力的な原木生産と持続可能な森林づくりを推進する	・加工・流通・販売の効率化を推進する ・プロダクトアウトからマーケットインへの転換を推進する	・木造建築にかかる技術・意匠力の向上を図る ・木の魅力の発信と理解醸成を図る ・県外企業の情報収集力を強化する ・県内企業とのマッチングを推進する	・優れた人材を育成・確保する
戦略目標	・民有林の原木生産量(年間) ㊹46.9万m3 → ㊵59万m3 → ㊴65万m3 ・民有林の再造林面積(年間) ㊳263ha → ㊵630ha → ㊴690ha	・県産製材品の出荷量(年間) ㊹142千m3 → ㊵169千m3 → ㊴181千m3	・県内における非住宅建築物の木造率(床面積ベース)の増加(年間) ㊳17.1% → ㊵20.0% → ㊴25.0% ・建築士等の育成や施主への理解の醸成に関する活動を行った地域の数(累計) ㊳0 → ㊵44 → ㊴44	・林業就業者数(累計) ㊹1,602人 → ㊵1,670人 → ㊴1,720人 ※椎茸・薪炭等の312名を含む
取組方針・主な「具体的な取り組み」	<ol style="list-style-type: none"> 労働生産性の向上による事業地の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ◆作業システムの改善による生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の導入 ・10tトラック道等の整備 ・[拡充]作業システムの改善 ・ICT等の活用促進 皆伐と再造林の促進 <ul style="list-style-type: none"> ◆皆伐の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・林地台帳等を活用した施業地の確保 ・皆伐に必要な作業道等の整備 ◆[拡充]再造林の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみでの再造林推進の取り組みを強化 ・再造林への支援と低コスト育林の推進 ・花粉対策苗等の生産体制の強化 施業集約化の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆[拡充]森の工場の拡大・推進 <ul style="list-style-type: none"> ・森林資源情報の高度化 ・施業の集約化を促進 ◆間伐の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 高品質な製材品の供給体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ◆需要に応じた製品供給力の強化・高品質化 ◆[拡充]製材加工の共同化・協業化等の促進 ◆乾燥機等の施設整備への支援(JAS対応) 製材事業体の生産・経営力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆事業戦略の策定・実践による経営改善の推進 ◆経営人材の育成に向けたアドバイザー派遣 ◆既存製材工場の労働力確保対策の実施 木材・木製品の高付加価値化の推進(A材の活用) <ul style="list-style-type: none"> ◆[拡充]非住宅分野向けの高付加価値製品の開発(チーム・ティンバライズとの連携) ◆[拡充]高付加価値製品の販路開拓 プラットフォームづくり等による地産・外商体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆[拡充]TOSAZAIセンターを中心とした情報交流の拠点の整備 ◆県内製材工場等の連携による集出荷体制の整備 ◆[拡充]需要にマッチした生産供給体制(SCM:サプライチェーンマネジメント)の確立 森の資源を余すことなく活用 <ul style="list-style-type: none"> ◆小規模木質バイオマス発電所の整備(熱電併給) ◆幅広い分野への木質バイオマスボイラー等の導入促進(熱利用) 	<ol style="list-style-type: none"> 木造建築に精通した建築士等の育成 <ul style="list-style-type: none"> ◆[拡充]林業大学校でのリカレント教育等による建築士の育成 ◆全国の建築士関係団体等との連携による建築士の育成 ◆木造建築の設計・技術支援 ◆木造建築のノウハウ収集・普及 施主の木材利用に関する理解の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ◆[拡充]施主の木材利用に関する理解の醸成(経済同友会等との連携) ◆CLT等の普及促進(日本CLT協会等との連携) ◆TOSAZAIセンター(提案・相談窓口)によるプッシュ型提案 マーケティング戦略の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆非住宅建築物の木造化・木質化の推進(経済同友会等との連携) ◆県産材を活用した木造住宅建築の支援 ◆流通拠点及び土佐材パートナー企業への販路の拡大 ◆海外への販売促進 	<ol style="list-style-type: none"> 林業大学校の充実・強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆[拡充]リカレント教育の更なる充実強化 ◆[拡充]新たな木造建築士育成の仕組みづくり ◆研修生確保対策の強化 きめ細かな担い手育成・確保の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆女性就業者の確保 ◆移住希望相談者に向けた各種相談会の開催 ◆小規模林業の推進 林業事業体の経営基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆[新規]事業戦略の策定による経営改善の推進 ◆森林施業プランナーの育成 ◆事業体の労働環境の改善 ◆事業体の経営基盤の強化